

特別講演 松平頼暁（作曲家）

「電子音楽、Expo'70からコンピュータ音楽まで ——自作を中心に」

聞き手：有馬純寿（彩都IMI大学院スクール、帝塚山学院大学）

日時：2006年12月15日 15:30～17:00

概要：

日本の電子音楽の歴史については、川崎弘二の同名の書の第一章に詳しい。同書の第二章には、私を含めた多くの関係者のインタビューが載っているが、それらは時とすると、殆ど「藪の中」状態になることもあって、現代史の読み方の難しさを表明している、と言えなくもない。この書にある他の人の見方もある程度、参照しながら、表記の題の下で、有馬氏の質問に答えたい。

日本のテープ音楽は、1950年代に始まっているが、私が関わっているのは1964年に完成した《transient'64》以来である。私は当時、既に小さな伝統と化していた、日本の電子音楽の枠から自由でありたいと考えていた。この頃既に、電子音楽と具体音楽の境界は曖昧になっていたが、私の次のテープ音楽《Assemblages》（1968）では両者の素材音が使われている。それ以前に、日本でもライブ・エレクトロニック・ミュージックは始まっていて、私も、1967年以降、作曲している。

《Accumulation》（1976）は典型的な例である。

Expo'70では、私は《朝の音楽》と《杖はひるがえり》他でお祭り広場の音楽を担当した。あるいは初めてクラシックを聞く人もいたかも知れない——当然、その人達は現代音楽を知らない——大集団の立場を擁護する当局者達との対応に苦労した記憶のみ残っているのはやむを得ないことだ。ここでの巨大なテクノロジーは文字通り、ポータブルではなかったもので、その後の私達作曲家にとって、どのような効果をもたらしたのか、直ちに指摘することはできない。

Expo'70でもコンピュータはしばしば使われていたが——上記の私の作品の演奏はコンピュータで制御されていた——これ以後に徐々にテクノロジー音楽はコンピュータ音楽を意味する時代になってくる。1982年以降、私の多くの作品は、全面

的あるいは部分的なコンピュータ・アシステッド音楽で、音素材がコンピュータによって計算されている。もっと積極的にコンピュータに依存した作品は、私の3番目（それ以後はまだない）のテープ音楽《Constellation》（1984）で、これはクセナキスのUPICシステムによっている。その後は、国立音楽大学の今井慎太郎氏の全面的なアシストを得て、ピアノとコンピュータのための作品《Cores》を作曲している（1997）。

主な紹介音源

テープ音楽：《transient'64》、《Assemblages》

ライブ・エレクトロニック音楽：《Accumulation》

コンピュータ音楽：《Constellation》、《Cores》

Expo'70のための音楽：《朝の音楽》、《杖はひるがえり》

松平頼暁（まつだいらよりあき）

1931年東京生まれ。東京都立大学（現、首都東京大学）理学部卒業、同大学院博士課程中退。理学博士。立教大学理学部教授を経て、現在同大学名誉教授。作曲、ピアノを独学で学ぶ。1958年、総音列主義による作品、《変奏曲》（1957）によって国際現代音楽協会ISCM主催音楽祭（現、世界音楽の日々）に入選。この作品を含め58年から93年にかけて同音楽祭に9回入選する。

61-66年、不確定性に関心を持つ。67年から、画家ロバート・ラウシェンバークのいうコンパインド・アートに触発され、新しい引用音楽を書き始める。《コヘレンシー》（1976）でアルバン・ベルクの旋法的十二音列を引用したことを契機に同年から旋法による作曲を始める。その後、その延長として、ピッチ・インターヴァル技法を開拓した。90年、ピアノと室内オーケストラのための《レコレクション》によって第3回セロツキ国際作曲家コンペティションでメック出版社特別賞を受ける。

1998-2002年にかけて、日本現代音楽協会委員長、その間、2001年には日本で始めて開かれたISCM主催「世界音楽の日々・イン・横浜」の大会会長を勤める。

これまでにオーケストラ作品から電子音楽やシアター・ピース作品まで約150曲を作曲しており、現在も精力的な作曲活動を行っている。

著書に『音楽＝振動する建築』（青土社）、『現代音楽のパサージュ』（青土社）がある。

〔主要作品〕（電子音楽を除く）

オーケストラ作品：《ダイアレクティクスⅡ》、《リメンブランス》（ピアノ独奏付き）

室内オーケストラ：《コンフィギュレーションⅠ,Ⅱ》、《レコレクション》（ピアノ独奏付き）

管楽オーケストラ：《エクспанション》 合唱曲：《レクイエム》 室内楽：《閃光》

独奏曲：《ガラ》（ピアノ） 歌曲：《ジェネシス》 シアター・ピース：《What's next?》

エスニック・ピース：《カインの犠牲者達のために》 等約150曲